

大阪府
豊中市

上津島遺跡

第5次発掘調査報告

平成9年(1997年)3月

上津島遺跡調査団
豊中市教育委員会

序 文

上津島集落の東側には、かって低地部の悪水対策のために設けられた用排水路が、越きもあらたに新島川親水水路として整備され、市民の憩いの場所となっている。当時としては地面を切り通しただけのこの簡素な水路岸辺から、地元民の手によって弥生土器や土師器が採集されたのは、豊中市史が発刊された昭和36年以前のことと記憶する。

顧みると、この土器の採集から数10年後、昭和58年に行なった大阪府営住宅建設工事に伴う上津島南遺跡の発掘調査が、この地域におけるはじめての本格的な発掘調査であった。この調査では、弥生時代の土器、奈良時代の掘立柱建物群や方形井戸、平安時代の土器集積土坑など多数の遺構を検出し、あらためてこの地域が弥生時代から平安時代まで、長期にわたり集落が継続した重要な地域であったことを明らかにしたのである。

さて今回の上津島遺跡における調査は、狹隘な範囲ではあったが、古墳時代の堅穴住居、祭祀を物語る滑石製模造品のほか、中世の掘立柱建物跡や「蘇民将来」の木簡など、各種の遺構、遺物を検出した。とくに古墳時代の流路からは、当遺跡がまるで木器の製作場所であったかと思われるほど多くの木器、未製品が出土した。鋤、泥除けなどの農耕具、轍木、鞍などの武器、馬具のほか、祭祀に使用されたと考えられる刀形の木製品など注目すべき数々の遺物から、この遺跡が古墳時代の農中にあって、木器の製作や祭祀に関わる重要な遺跡の一つであったと認識することができるであろう。

最後に、調査に際して多くご協力をいただいた土地所有者をはじめ、施工業者、近隣住民の皆様方のほか、続く悪天候にもかかわらず、最後まで現地作業に従事していただいた多くの調査員、調査補助員の諸君に対し、衷心より謝意を申し上げたいと思う。

平成9年3月31日

上津島遺跡調査団

団長 玄野 強

序 文

私たちの住む豊中市は、縁なす千里丘陵と猪名川の流れに育まれた沃野の地にあります。この地に人が住み始めたのは今から約二万年前、氷河期の最後にあたる旧石器時代後期のことと考えられています。その後、気候の温暖な绳文時代前期を迎えると、海面は今よりも上昇し、曾根段丘のあたりまで海水が及んだと考えられています。この大きく拡大した海上に流れ込む太古の猪名川は、北部の山から多量の土砂を運んで、海を徐々に埋め立て、やがて服部や庄内など現在の平野部を形成しました。ここに報告する上津島遺跡は、この厚い沖積層に覆われた平野部に育まれた遺跡の一つであります。

さて当報告書は、民間の共同住宅建設に先立つ緊急発掘調査の記録です。古墳時代から中世にかけて営まれた数々の生活の痕跡は、先人たちが当地において、幾度かの洪水を経験しながら自然環境の変化にうまく適応しつつ、永らく暮らし続けたことを物語っています。このことは現代に生きる私たちにとっても、自然や身近な環境のあり方を考える上で、大切なことを教えてくれているように思います。

現地での調査からすでに4年の歳月が経過して、ここにようやく報告書という形で基礎資料の刊行がきました。今後この資料をもとに研究が深められ、上津島の歴史の一端が明らかにされることを期待いたしますとともに、本書が郷土豊中の歴史に対する市民の皆様のご理解の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、調査を指導された玄野団長をはじめ、土地所有者、調査関係者の皆様方に対し、心より厚く御礼申し上げる次第です。

平成9年3月31日

豊中市教育委員会

教育長 粟原有史

例 言

- 本書は、大阪府農中市上津島3丁目94-1、94-5で実施した上津島遺跡第5次発掘調査の報告書である。
- 発掘調査は、土地所有者の依頼を受けて上津島遺跡調査團を組織し、実施した。また農中市教育委員会は、現地調査について指導、協力を行った。
- 現地調査は、上津島遺跡調査團長亥野 張（神戸国際大学講師）の指導のもと、社会教育課職員部聰志が担当した。
- 現地での発掘作業、ならびに出土遺物の整理作業に従事した調査員、調査補助員作業員を以下に記す。
（現地作業） 竹谷俊彦、水野 豊、岡林孝之、藤井信之、吉村達夫、今村 浩、
植 賢一郎、高見尚征
（整理作業） 浅田尚子、浅野しほ、岡部純子、白川万記子、林 涼子
- 本書の作成にあたり、下記の方々にご協力をいただいた。ここに芳名を記し、感謝の意を表したい（50音順）。
石井久夫（大阪市立自然史博物館）、奥西藤和（京都大学大学院）、祭本教士（川西市教育委員会）、杉井 健（大阪大学文学部助手）、次山 淳（奈良国立文化財研究所）、中野麻理子（大手前女子大学）、東野治之（大阪大学文学部教授）、萩本 勝（平安高校）
- 本書の執筆は、石製品を浅田尚子、木製品を林 涼子が担当し、編集その他を服部聰志が行った。また自然遺物（貝類）については石井久夫氏より玉稿を賜った。

本文目次

序 文	上津島遺跡調査團長 亥野 張
序 文	農中市教育委員会教育長 栗原由史
第1章 遺跡の位置と環境	
第1節 地形的環境	1
第2節 歴史的環境	3
第3節 過去の調査	7
第2章 調査の経緯と経過	
第1節 調査にいたる経緯	9
第2節 調査の経過（調査日誌抄）	9
第3章 調査の成果	
第1節 調査区の設定と基本層序	11
第2節 古墳時代の遺構、遺物	15
第3節 水田遺構	61
第4節 中世の遺構、遺物	63
第5節 包含層の出土遺物	74
第6節 調査成果のまとめ	83
付章 自然遺物の分析	
上津島遺跡より出土した軟体動物（貝類）遺骸	99
土器観察表	105
図 版	

挿図目次

第1図 遺跡の位置	iv	第39図 流路第2層出土遺物-1	45
第2図 周辺地形と遺跡の分布	2	第40図 流路第2層出土遺物-2	46
第3図 繩文土器（總積遺跡14次）	3	第41図 流路第2層出土遺物-3	47
第4図 弥生時代の集落（小曾根遺跡15次）	4	第42図 木製品-1	49
第5図 低地部の方墳（利倉南遺跡2次）	5	第43図 木製品-2	51
第6図 奈良時代の井戸（上津島南遺跡2次）	6	第44図 杭（344）の細部	52
第7図 調査地点の位置	7	第45図 木製品-3	53
第8図 第2次調査の風景（新鹿島川）	8	第46図 木製品-4	54
第9図 調査地区割り図	11	第47図 木製品-5	55
第10図 基本層序模式図	12・13	第48図 石製品-1	57
第11図 弥生土器	13	第49図 石製品-2	59
第12図 調査区西壁断面（流路付近）	14	第50図 白王の法量分布	59
第13図 捄穴住居1・2・3平面図・断面図	16	第51図 石製品出土地点分布図	60
第14図 第9層上面遺構平面図・断面図	17・18	第52図 水田遺構平面図・断面図	62
第15図 捄穴住居1出土遺物	20	第53図 土坑1出土遺物	64
第16図 捄穴住居2出土遺物	20	第54図 第4、5層上面遺構平面図	65・66
第17図 捄穴住居3出土遺物-1	21	第55図 上坑2平面図・断面図	67
第18図 捄穴住居3出土遺物-2	22	第56図 土坑2出土遺物	67
第19図 上下部灰堀及び中間層出土遺物	23	第57図 土坑3遺構及び出土遺物	69
第20図 上坑1平面図・断面図	24	第58図 土坑4出土遺物	70
第21図 上坑1出土遺物	25	第59図 土坑5・6・8出土遺物	71
第22図 土坑2出土遺物	25	第60図 井戸1平面図・断面図	72
第23図 土坑4・5出土遺物	25	第61図 井戸1出土遺物	72
第24図 溝1出土遺物	26	第62図 挖立柱建物1柱穴（SP-20）の 根石に転用された砥石	73
第25図 南部小溝群出土遺物	28	第63図 第2層出土遺物	75
第26図 Cライン流路断面図	29	第64図 第3層出土遺物	75
第27図 杭列平面図・立面図	30	第65図 第4層出土遺物	76
第28図 流路内遺物出土状況	31	第66図 落ち（段）肩部第4層出土遺物	76
第29図 流路最上層（第7層下部）出土遺物	32	第67図 落ち（段）下第4層出土遺物	77
第30図 流路第1層出土遺物-1	34	第68図 第6層出土遺物	77
第31図 流路第1層出土遺物-2	35	第69図 第8層（北部）出土遺物	79
第32図 流路第1層出土遺物-3	36	第70図 第8層（南部）出土遺物	81
第33図 流路第1層出土遺物-4	37	第71図 柱穴・ピット出土遺物	82
第34図 流路第1層出土遺物-5	38	第72図 壺・壺の分類	86
第35図 流路第2層上部出土遺物	39	第73図 高杯・鉢の分類	88
第36図 流路第2層下部出土遺物-1	41	第74図 壺・鍋	89
第37図 流路第2層下部出土遺物-2	42	第75図 製塙に関係する上器	92
第38図 流路第2層下部出土遺物-3	43		